

令和4年度 府立海洋高等学校 学校経営計画（スクールマネジメントプラン）（計画段階・実施段階）

学校経営方針（中期経営目標）	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点（短期経営目標）
<p>家庭・地域社会及び関係機関との連携を図り、自ら課題を発見し解決する能力を備えた、未来を切り拓き地域創生に資する水産・海洋のスペシャリストを育成する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <p>（重点・新規項目）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 「京都府教育振興プラン」の推進 2 新学習指導要領の円滑な実施 3 生徒1人1台学習用端末の円滑な導入 4 コミュニティ・スクールの推進と地域創生に資する人材育成 5 スクール・ミッションに基づくスクール・ポリシーの策定 </div>	<p>（成果）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 全職員による一致した指導により生徒が規範意識を重んじ、自律的で調和のとれた高校生活を送っている。 2 実践的な教育活動により、マリンマイスター顕彰対象生徒数の定着や生徒研究発表日本海南部地区代表等を始め、全国の水産・海洋高校の学習・研究活動をリードしている。 3 生徒の多くが意欲的に資格取得に取り組み、教育長表彰80%該当の他、レベルの高い資格を取得する生徒数が増えている。 4 進路について、就職では関連分野を中心に20年連続100%内定、進学では国公立大学（29年連続）、公務員10名合格をはじめ幅広い分野の就職先、大学・専門学校等に合格した。 5 ほとんどの生徒が何らかの部活動に加入し、高校生活の充実を努めるとともに、全国大会出場等の実績を重ねている。 6 新型コロナウイルス感染予防の取組を通じて新しい生活様式が定着し、保健衛生に係る意識と生活スキルを向上させた。 7 生徒会活動並びに図書館活動の充実により、生徒が多様な価値観をもち、学習・研究活動の幅を広げている。 8 宮津商工会議所との連携協定によるキャリア教育の充実や学校運営協議会による地域の魅力を感じさせる教育活動ができた。 9 キャリアプランニング・サポート（小中高連携事業）並びにコラボ推進プログラムにより京都府北部の児童・生徒が参加し、水産業や海洋産業への理解を深めた。 <p>（課題）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 新学習指導要領の円滑な実施、評価の充実 2 生徒、保護者等、中学生、地域の方等から信頼され、憧れの対象となる魅力ある教員像の確立 3 目的意識の高い志願者数確保に繋がる効果的な広報活動実施 4 生徒1人1台学習用端末の円滑な導入 5 働き方改革の推進等を踏まえた職場改革 6 個に応じた指導・進路保障の推進及び指導状況の共有 7 下宿・寮・家庭における好ましい生活の支援 8 きめ細かな感染症対策と新しい生活様式に基づく教育活動の更新 9 ボランティア活動等、コロナ禍以前の特色ある取組の継承 10 中期経営目標の具現化 	<p>本年度学校経営の重点（短期経営目標）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 普通・専門教育の充実と希望進路の実現 <ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒1人1台学習用端末の活用も踏まえ、「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実し、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげる。 (2) 授業（実習）改善と海洋プロジェクトの充実により、進路の選択・決定における自己実現を支援する。 (3) 地域人材を活用したキャリア教育や外部機関等とのつながりを充実させることで、何ができるようになるかを展望させ、地域創生に結びつける。 (4) 思考力・判断力・表現力の醸成を基に、校内の連携や課題の共有に努めながら、探究活動の質をより向上させる。 (5) 読書活動・図書館活動の充実を図る。 2 基本的生活習慣の定着 <ol style="list-style-type: none"> (1) 生徒指導の考え方を共有し、一貫した指導体制の確立を図るとともに、それぞれの課題に応じた指導を推進する。 (2) 道徳性や規範意識を大切に、状況に応じた行動（ふるまい）ができる人間性を育む。 (3) 成年年齢引き下げを踏まえ、社会人としてより一層責任と自覚ある行動を促す。 3 心の育成 <ol style="list-style-type: none"> (1) 系統的な人権教育により、生活の中に生かされる指導を行う。 (2) 日常的な声かけに努め、成長を確かめ合いながら自己有用感を育むとともに主体的な行動を促すとともに公共心を育成する。 (3) 互いの個性や多様性を認め合い、生かしながら共に学ぶ仲間づくりを進める。 4 安心・安全・衛生管理の徹底 <ol style="list-style-type: none"> (1) 常に緊張感を持って実習に臨むとともに、点検・確認を怠らず、安全第一を徹底する。 (2) 生活全般において法やルールを守り、他者を思いやる気持ちを行動につなげる能力や態度を育成する。 (3) 新しい生活様式を定着させ、新型コロナウイルス感染症対策を徹底する。 5 広報活動の充実と家庭・地域との連携強化 <p>専門学科や進路、部活動等の取組を中心とする中学生目線を基にした積極的な広報に努め、本校の魅力を発信、アピールする。</p> 6 職場改革の推進 <ol style="list-style-type: none"> (1) 職員それぞれが職務にやり甲斐を感じ、Well-beingの実現が図れるよう職場環境の改善を図る。 (2) DXの推進等を通じた働き方改革により、生徒と向き合える時間を確保するとともに、学校職員としての資質向上に努める。 (3) 職員がお互いを慮り合いストレスの軽減に務めるとともに、業務の共有・協働・分担、分掌等の枠にこだわらないOJT、スキルの伝承を推進する。

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
組織・運営	個に応じた指導の推進と指導状況の共有等を通じ、教育活動の充実を図る。	・学校経営計画の各評価領域の具体的方策について、目標に対する進行状況を点検・共有等することにより、高い達成状況を実現する。		
	本校の魅力を積極的に発信するとともに、志願者数の増大を図る。	・学校説明会等で、特色ある教育活動・専門教育の魅力を中学生及びその保護者に発信することにより、持続的な観点での志願者数の増加を図る。		
	職場環境の改善を図るため、働き方改革を推進する。	・Teams等の活用によるICT化を推進することで、各分掌からの配布文書のペーパーレス化を図るとともに情報伝達の即時性・効率化及び業務縮減に努める。 ・行事及び業務の焦点化や精選、分掌業務の平準化や協働等により、時間外勤務時間の短縮を図る。		
総務企画部	専門学科や進路、部活動等の取組を中心とする中学生目線を基にした積極的な広報に努め、本校の魅力を発信、アピールする。	・「ホームページ・広報資料・学校説明会」を軸に、受け手（保護者、中学生等）を意識した内容の精選や質の向上等を図り、本校の魅力を効果的に発信する。		
	系統的な人権教育により、生活の中に生かされる指導を行う。	・系統的な人権教育を推進するために、次の4項目を掲げる。 ①計画的な人権学習・人権講演会の実施 ②人権だよりの発行 ③文化委員会の人権啓発の取組 ④道徳教育取組まとめ		
教務部	カリキュラム・マネジメントの推進により教育活動の質を高め、学習効果の最大化を図る。	・新学習指導要領に基づく学習評価や習修内容の精選に留意した年間学習指導計画、指導シラバスを編成し、各科目の円滑な授業進行を目指す。		
	新学習指導要領に基づき、より適切な観点別評価の実施と教科指導力の向上を図る。	・公開、研究授業への参加や、観点別評価等の新学習指導要領への円滑な移行を目的とした研修を実施し、教員の指導力と生徒の学力向上を目指す。 ①公開授業への参加1人あたり3回以上 ②観点別評価に関する教職員研修を3回以上実施 ③年次進行を踏まえた新3観点別評価の試行案作成率80%以上		
	端末機器等のICT活用を推進し、社会のデジタル化への対応力を高める。	・教職員のICT機器の活用を推進することで、生徒の授業理解を促し、生徒の満足度の向上に繋げる。 ①ICT機器活用に関わる教職員研修3回以上 ②教科毎のデジタルコンテンツ整備（製作等）数1回以上 ③授業評価アンケートにおける満足度項目平均3.5以上		
	読書活動を通してことばの力を高め、豊かな思考力を醸成する。	・読書活動を推進して生徒の健全な成長を促すことで、学校生活をより充実したものとする。 ①ICTを活用した教職員向けの読書啓発を11回以上実施 ②図書委員による読書啓発活動を11回以上実施 ③図書室で1冊以上本を借りた生徒の割合92%以上		
生徒指導部	生徒指導の考え方を共有し、一貫した指導体制を図るとともに、それぞれの課題に応じた指導を推進する。	・個に応じた指導の推進と指導状況の共有を図る。 ・生徒自らが主体的に規範意識やモラルを高める取組を組織的に推進する。		

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
進路指導部	学年部及び関係分掌、学科・コースと連携し、進路実現に向けての統一した指導を実施し、希望進路を実現させる。	・進路検討会議等で進路に関する情報の共有化を図り、個に応じた適切な指導を展開することにより、希望進路を実現させる。		
保健部	学校生活を安全・安心に送ることができるよう継続的な感染予防対策を定着させる。	・各分掌と協力し、学校生活の中での継続的な感染予防対策の定着を目指す。 検温や健康観察、出欠席など生徒の健康状態の把握の効率化及び継続的な予防対策の定着を目指す。		
	施設点検及び清掃時の点検を定期的に行い、改善が必要な箇所の早期発見に努め、学校の衛生環境の充実を図る。	・事務部と連携し、定期的な校内点検を行う。（月1回を目標とする。）		
	支援を必要とする生徒に対して、情報のとりまとめを行い各分掌と連携したきめ細かい支援に努める。	・迅速なケース会議、教育相談会議の開催に努力し、学年部、スクールカウンセラーと連携し個別の支援が必要な生徒の支援内容の共有化を図る。		
事務部	円滑な教育活動が展開できるように効果的で適切な業務執行に努める。	・年度末予算執行率の縮減に努める。 ・前年度踏襲に徹することなく、工夫を凝らした業務処理に努める。		
	職員の資質向上と生活改善を図る。	・事務部としての総実労働時間の短縮に努める。 ・センター研修等の府の研修の受講の推進をすすめる他、校内自主研修を実施する。		
みずなぎ	全ての航海実習を通して安全・安心を徹底する。	・乗船実習時、前における集合操練を実施するとともに、救急コール携帯の徹底を図る。		
	組織・運営と連携し、小中学校の体験航海の増大を図るとともに一般団体の体験航海も受け入れる。	・組織・運営と打合せをし、年間の体験航海を増加させる。		
	船舶コース・学校外機関と連携しアカムツの改良網について研究を深める。	・実習担当教員との連携を深め、知識や技術の向上に努める。		
	新型コロナウイルス感染症対策を徹底する。	・船内消毒を励行する。		
寮・下宿運営部	寮生・下宿生及び保護者が安全・安心に生活を送るとともに、集団生活の中で学校全体を牽引する人材を育成する。	・寮生・下宿生・保護者・下宿管理者と密に連携を図るため、面談及びアンケートを実施する。 ・寮・下宿運営部の運営を円滑に進めるために、役割分担を明確にして、情報共有を密に行う。		

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
第1学年部	基本的な生活習慣と学習習慣の確立を図り、進路実現に向けた学力の伸長を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学力伸長の取組を図り、成績上位層を伸ばす。 ・ 資格や検定等の取得を目指して、計画的に学習する習慣を身に付けさせる。 		
	さまざまな教育活動を通して自己有用感や人権意識を育み、生徒一人一人の内面からの規範意識の向上を図る。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ボランティア活動等の課外活動に積極的に参加させ、自己有用感を高め、社会に積極的に参画する意欲と態度を養う。 ・ 学年集会やHR活動を通して、他者を認め、尊重する態度を育む機会を積極的に設ける。 		
	生徒一人一人の学習・生活面での課題を早期に把握し、円滑に課題解決が行える環境を整備する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個々の生徒の学習・生活面での課題を早期に把握するとともに、進路実現に繋がる学科・コース選択を促す。 		
第2学年部	希望進路実現に向け、個々の実績づくりとよりよい人間関係づくりをサポートする。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 希望進路の具体化を図ることで、学習意欲の向上につなげる。 ・ 考査前、学年部による学習会を実施し、学習成績の向上につなげる。 		
第3学年部	希望進路実現に向け、教科、学科・コース、分掌等と連携を図り、学習に関する基礎的環境整備と個に応じた指導に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学力向上の取組を行い、授業や家庭学習に向けての意識の向上を図る。 		
	希望進路実現に向け、関係分掌、学科・コース、保護者と連携を図り、丁寧な指導を心掛ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 希望進路を実現させる。 		
	日々の学校生活を大切に過ごし、基本的な生活習慣の確立を目指し、適切に行動できる生徒を育てる。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科、学科、コースと連携を図り、日常的な点検や声掛けを行う。 		
	規範意識を高めるとともに人を尊重する心を育て、良好な学校生活が過ごせるように努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常的に規範意識や人権意識の向上に努め、他人を尊重する心を育む。 		
海洋科学科	「個別最適な学び」や「協働的な学び」を一体的に充実させ、進路選択・決定における自己実現を支援する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 第3学年において、希望進路を実現させる。 		
	令和5年度より開始する「課題研究」分割履修や観点別評価等についての研修を深める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 2年「キャリアチャレンジⅡ」及び「総合実習」の運用方法を検討する。 		
航海船舶コース	専門性の高い資格・検定に挑戦することにより、主体的に学習に向かう姿勢を身に付けさせるとともに、専門性の涵養に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ ICT活用や補習等を推進し、自ら学ぶ姿勢を育成する。 (資格毎数値目標) 海技士(三級2名、四級7名)、第二級海上特殊無線技士11名 小型船舶操縦士(一級7名、二級12名)、漁業技術検定11名 		

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
海洋技術コース	海洋土木や潜水作業に関する専門性の向上を図ると共に、海洋技術コースに関連する進路先への就職、進学につなげる。	・海洋技術コースに関連する資格取得・検定合格を通じて、生徒の専門的な知識や技術の習得を図る。また、企業見学や業務体験を通じて進路意識の向上を図り、コースに関わる進路指導へと繋げる。		・
	調査研究に関わる外部との連携を強化し、多面的な視点で研究内容を検討、模索することで、地域振興につなげる。	・丹後半島沿岸海域の環境保全及び地域振興を目標とした新たな研究テーマを創出する。また、各種堆肥の製造及び栽培実験等の研究を外部と連携して行うことで、堆肥製造の更なる深化を図る。		・
	教員自身がより専門性を高められるよう努める。また、教員研修などを通して教員としての資質・能力の向上を図る。			・
栽培環境コース	学習した専門的な知識と技術を定着させ、社会で活躍できる資質と能力を育成する。	・増養殖に関する資格取得を推進し、知識・技術の修得に繋げる。 (小型船舶1級・2級、栽培検定1級・2級、漁業技術検定、潜水士等)		・
	個に応じた指導を行い、希望進路を実現させる。	・コース面談を行い、希望進路や生徒個々の状況を把握し、進路実現や課題解決に必要な指導や助言を実施する。		・
	先進的な増養殖技術や、ICTを活用したスマート水産業について学習し、次世代を担うために必要な知識と技術を習得させる。	・外部講師を招いた学習や、プログラミングやICT機器を用いた増養殖技術について学習させる。		・
食品経済コース	コンテストでの入賞や高校生レストランの活性化を目指し、本校生徒の満足度の向上につなげる。	・外部コンテストに積極的に参加し、地域食材の発信に繋げる。 ・自分の学校に誇りを持つ生徒を育成する。		・
	関係諸機関との連携を推進するとともに、生徒の声に積極的に取り入れる努力をする。	・地元の低利用資源を活用した高校生レストランやこども食堂を実施する。 ・情報機器やログノートを活用し、生徒の声を授業に生かすよう努める。		・
	コース内での研修を十分に行い、チームとして希望進路実現を目指す。	・定期的に研修会を実施し、知識・技能の伝承を行う。 ・京都府内関連企業への就職を推進する。		・
BYOD運営部	生徒1人1台学習用端末導入に係るハード面、ソフト面の環境整備を行い、ICTを円滑に利用できる学校づくりを推進する。	・予備端末や貸出端末の管理、端末活用ガイドブックの整備等、生徒が端末を利用できる環境整備に取り組む。 ・ICTを活用した教育活動を推進するために、指導用端末ならびに生徒用貸出端末の利用環境向上に取り組む。		・
	ICTの利点と危険性を理解し、教職員が教育の質の向上に利活用できる知識と技能の向上に取り組む。	・府立高校ICT利活用研修、新しい授業づくりリーダー育成研修で習得した知識や情報等を教職員に周知し、学校全体のICT教育を推進する。		・

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
国語科	基礎学力の定着と、国語に対する意欲・関心を高め、すべての教科の基礎となる国語力の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 全生徒に対し、漢字検定並びに文章検定の受験を奨め、語彙力と文章力の向上に努める。年間を通し、漢字検定については3級から2級の合格者を、文章検定については4級から準2級の合格者を、それぞれ25人以上達成することを目標とする。受験者に向けた講座を開講し、対策問題集の配布を行うとともに、方策を行う。 ・ 生涯に渡り、読書活動に親しむ態度を養うため、読書活動を推進する取組を実施する。図書館の積極的な利用や、読書活動に関わる課題、教員による推薦書の紹介、生徒が本を紹介する活動を取り入れる。学期毎に読書アンケートを取り、年間を通し「読書が好き」と答える生徒が60%以上になることを目指す。 ・ 生徒1人1台学習用端末を踏まえ、新科目である「現代の国語」並びに「言語文化」におけるICTの積極的活用を実施する。具体的には、以下の取組を行う。 <ol style="list-style-type: none"> 1 「現代の国語」または「言語文化」の授業で週1時間ICTを使用する。 2 月に一度スタディサプリから課題の配信を行う。 3 ロイロノートを利用し、課題の集約や共有を行う。 4 スタディサプリから読書アンケートを配信する。 5 「書くこと」「話すこと」「聞くこと」に関わる取組で端末を利用する。 		
地歴・公民科	地歴・公民科に対する関心・意欲・態度を醸成することで、国際社会で生きる日本人としての意識を涵養し、確かな学力を身に付けさせる。そのために、思考力・判断力・表現力を高める指導力を向上させ、主体的・対話的な学びにつながる授業改善を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期的な小テストを実施し、学力定着に取り組む。 ・ 問いを考察させる主体的な授業の実践により、授業満足度を高める。 		
数学科	生徒一人一人に合わせた指導を徹底する。ICTを有効活用し、思考力・表現力を伸ばすとともに、主体的に学習に取り組む態度を育成する。 数学検定の受験を促し、数学への興味・関心と資格取得に対する意識を高める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 以下の4項目の達成を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 成績不認定生徒0名 ・ 予習を習慣化させるための指導法の確立 ・ 教育用端末を活用した授業の実践 ・ 観点別評価の年次進行に備えて、教科内での情報の共有 ・ 以下の3項目の達成を目指す。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 数学検定受験生徒数の増加（前年度35名） ・ 数学検定準2級の合格率の向上（前年度22.2%） ・ 数学検定の新規合格者数の増加（前年度9名） 		
理科	理科の授業を通じて論理的な思考力・判断力の醸成に努める。そのために、BYODに対応したICT教材の利用や観点別評価に対応した授業づくりを推進する。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 新課程の「化学基礎」にて個人端末を活用した以下の取組を行う。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 端末を活用したグループワークの取組 ・ 端末で取り組ませた教材プリントなどの提出 ・ Formsを活用したリアルタイムでの送受信の取組 ・ ロイロノートを活用した生徒間でのやりとり ・ 実験等の動画を共有し、理解の深化につなげる取組 ・ 観点別評価に向けて定期考査以外の評価方法を確立し、次年度以降の科目に関してさまざまなアプローチで取り組む。6 		

分掌・教科等	重点目標	具体的方策	評価	成果と課題
保健体育科	安全に授業を進めるとともに、学力向上と希望進路を実現し得るたくましい生徒を育成するため、体力向上を目指す。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体育の授業中における事故・ケガを減少させる。 ・ 15分間走における昨年度（3回分の1人平均9,037m）の記録を更新する。 		
美術科	生徒一人一人が作品と向き合う中で、高い意識をもって制作に取り組めるよう、授業規律の確保と授業態度の向上に努める。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 計画的に制作活動に取り組み、作品を期限内に完成させ、提出する。 		
英語科	生徒の学びに向かう姿勢を育み、基礎力の定着を図るとともに、4技能5領域を意識した学習指導を行う。	<ul style="list-style-type: none"> ・ プレゼンテーション・スピーキングテストなど、パフォーマンス課題を与えることにより、生徒の英語学習へのモチベーションを高める。 ・ 4技能5領域の英語力を高めるため、実用英語技能検定やGTECの受験を促し、英検の合格者数の増加を図る。 		
家庭科	生涯を通してよりよく生きるための力、生活を創造する力を身に付ける。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭生活に関する基礎知識の学習プリント記入状況を確認し、学習内容の定着を把握する。 ・ 自立に向けての実習をできるだけ多く取り入れ、体験的に学ばせる。 		